

猿払一大学 / テレビ学習 (遠隔学習支援) を振り返って



はじめに

この事業は、①本学の「情報」と「教育」を使い、僻地児童の学習支援のあり方を創造することを目的に、②9月27日～10月4日の土曜4回、9時～11時まで、パソコン画面を使って浅茅野小学校(猿払)の3年生以上7名に国語と算数の学習支援を、③教員養成ゼミの3年生以上7人が交代で支援した。大学側は佐賀、坪内、米津、猿払側は大石教育長、教育委員会が役割を担い、本学の古川先生、浅茅野小の館野校長先生、斎藤教頭先生にお世話になった。

大きな成果づくり、来年度も実施

10月9日(木)に、関係者が集まり、今回の事業の総括会議。結論は、①子どもの意欲が高まり積極的に楽しく学習できた、②今後3年間、実験研究を継続する、③猿払側で対象児童・生徒、テキストや学習ルール、支援内容を検討する、④大学側でもハード面、支援のあり方を考えていくことに。



全員の意見が一致したのは、浅茅野小児童の素直さと積極性、大学生の臨機応変な指導力。「安心して見ていられた」という声。グングン塾や利尻学習支援活動が力になっているようだ。それに、「子どもが好きだ」という学生の意識も大きい。最後の日に、浅茅野小の子どもたちと学生との反省交流会が行われた。学生が色紙に寄せ書きして子どもたちにプレゼントし、学校付属ピザ釜で焼いたピザをいただきながら交流したが両者に感動が生まれ、それが今回の教育的な成果を物語っていた。



この活動は、グングン塾、利尻遠征(全小中学生対象夏休み学習会)とはひと味違う可能性を秘めている。他町村からも注目されるのは間違いないがこれ以上の規模では教員養成ゼミだけでは限界があり検討が必要だ。

学生の感想から

…目の前に実際の児童がいない授業を経験した。予想以上に難しく、あまりうまく進められなかったが、一緒に支援した6人の仲間は臨機応変に対応し感心した。何よりも、浅茅野小の児童たちの勉強に対する意欲と素直さに驚ろき嬉しかった。未熟な私にも頑張ってきてくれ何とか無事に終えることができた…不安が先行したが、今では、自分にとってとても意義のある学習活動だったと思っている…【特別版「教たま」(3年 石田裕哉「利尻遠征と猿払遠隔支援」)から】

児童の感想から

●楽しかった。テレビ電話みたいで面白かった。(大学生の教え方は)わかりやすかった。バグが起きないように欲しい。またやって欲しい●ほかのところの人と話が出来てよかった●

遠くの人にしっかり教えてもらうことができたのでよいなあと感じました。今度の時は授業を増やして欲しい●やりやすいしわかりやすい。またやりたい●ふだんとちがう勉強ができてとても楽しかったです。違う教科も教えて欲しい。